

五月七日、駐鎮西域長史關内侯李柏、頓首頓首、別來○○恒不去心、今奉臺使來西、月二日到此、未知王消息、想國中平安、王使迴復羅、從北虜中、與嚴參事往、想足至也、今遣使苻大。往相聞、通知消息、書不盡意、柏頓首頓首。

コンチダリヤ附近發見文書。

縦七寸。横八寸。用紙は檀紙の類。

○は文字不明。

□の中の文字は他の断片によりて補ひたるものなり。

行數字數及び旁書、すべて文書の體裁に従ふ。

(口繪寫眞参照)

草稿なることを推知するに難からず。李柏の名は晋書八十六卷張駿傳中に見ゆる所にして、「西域長史關内侯李柏、請擊叛將趙貞、爲貞所敗、議者以柏造謀致敗、請誅之、駿曰吾每以漢世宗之殺王恢、不如秦穆之赦孟明、竟以減死論、群臣咸悅」と記せり。即ち前涼張駿の爲に西域經營の任に當りし人にして、此書また其事蹟の一部を今日に傳ふるものなり。西域長史の官、關内侯の爵共にこれ漢時の名稱を襲踏するものにして、漢書百官志の條にも郡は郡